

2 研修内容・研修計画

1 本年度研究主題

(小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業指定校区のため、周東中校区内統一)
「自ら学び、かかわり合いを通して、学びを深める児童・生徒の育成
～自分の思いや考えを豊かに表現する力をのばすために～」

2 研究主題設定の理由

(1) 小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業指定校

周東地区1中6小学校(周東中、高森小、川上小、米川小、修成小、周北小、そお小)は、毎年、共通教育目標を掲げ、小中一貫教育に取り組んできている。今年度はさらに充実した取組を行っていきけるよう研究主題を統一し、「小中一貫教育に係る確かな学力推進研究事業」として、2カ年計画で実践を行うこととしている。

主題の統一に当たり、各校の研究主題に着目すると、「主体的」「つながり」「関わり」「共に」「児童生徒の育成」など、共通するキーワードがいくつもあることがわかる。また、周東中校区の学力に関して、「基礎学力不足」「読解力、説明力不足」「家庭学習の不十分さ」という共通の課題があることもわかった。

(2) 本校の児童の実態と研究主題

本校は、平成26年に岩国市立祖生東小学校と祖生西小学校が統合し新設された開校10年目の学校である。

平成28・29・30年度は「主体となって活動する『そおっ子』の育成」を研究主題に掲げ、児童が課題に主体的に関わり、他者と協力しながら課題を解決する力を高めていくことに焦点を当てて取り組んできた。また、令和元年度は、「主体となって活動し表現する『そおっ子』の育成」に取り組み、どの児童も積極的に自分の考えを表現しようとする態度が見られるようになった。しかしながら、互いの考えをかかわらせ、深めることにおいては十分とは言えない状態であった。

そこで、令和2・3・4年度は、「主体的・対話的で深い学びのある授業の創造」を研究主題として掲げ、特に、深い学びが生まれる対話とはどのようなものかを授業を通して研究してきた。その成果として、相手が何を言おうとしているのかを考えながら聞き取ろうとする姿勢がみられるようになってきた。更に、複式学級における効果的なICTの活用の仕方や特別支援教育の視点から全員が学習に参加するための環境づくり、個の実態に応じた支援についても研修を深めることができた。一方で、複式学級の間接指導学年への授業の仕組み方やガイド学習について、児童が「見通しをもつ」「対話等により学びを深める」「学習を振り返る」際のICT活用法についてはまだ研修が十分であるとは言えない。

以上のことから、今年度は、周東中校区の課題と本校の課題を踏まえて、児童一人ひとりの、また学級全体のさらなる学力の向上を図ることをめざし、研修を進めていきたい。

3 周東中校区確認事項

- ・2年間の中学校区共通の研修主題として取り組み、計画的に進めていく。
- ・1年目は、表現するための基礎的な力をつけることをめざす。
例えば、説明に使用する用語、筋道を立てて説明するための順番 等、基本的なスキルを身につける。
- ・2年目は、より良い方法で「豊かに表現」できることをめざす。
- ・本研究事業は、周東中校区共通の学力向上に係る課題である、算数・数学を中心に進めていく。
- ・校内研修では、算数・数学に限らず、「豊かに表現する力」を育むための取組を推進していく。
- ・「かかわり合い」については、人とのかかわりだけでなく、モノとのかかわり等、学校規模や実情に応じて幅広く捉える。

4 本校における研究内容と方法

(1) 目指す授業のイメージ

- 「こんな子どもを育てたい」という教員の願いがこもった授業
- 明確な目標のもとに組み立てられている授業
- 教員の表情が豊かな授業
- 活動の切り替えがきびきびしている授業
- 必要に応じて、さまざまな学習形態を工夫して取り入れている授業
- 様々な評価方法を取り入れ、多面的に児童を評価している授業
- めあてが達成された授業

(2) 研究内容・方法

① 問題解決の過程を大切にしたい授業づくり

- 児童の学力向上（評価テスト、学力・学習状況調査をふまえての対策）
- アクティブ・ラーニングの視点から
 - ・ 学習課題に関する働きかけ
 - ・ 発問、説明、指示
 - ・ 学習形態（一斉学習・グループ学習・ペア学習・個別学習）
 - ・ 板書、ノート、ワークシート、資料提示、ICT機器の活用
 - ・ 振り返り
 - ・ 児童の見取り、評価
 - ・ 授業評価、改善
- 一人一授業公開
- 個人テーマ（研究主題に沿って）
- 家庭学習のすすめ（授業・児童の学力を支える）
- ユニット型研修（多様な視点）
- 外部講師の招聘（受指導）
- 互見授業による学び合い（年間）

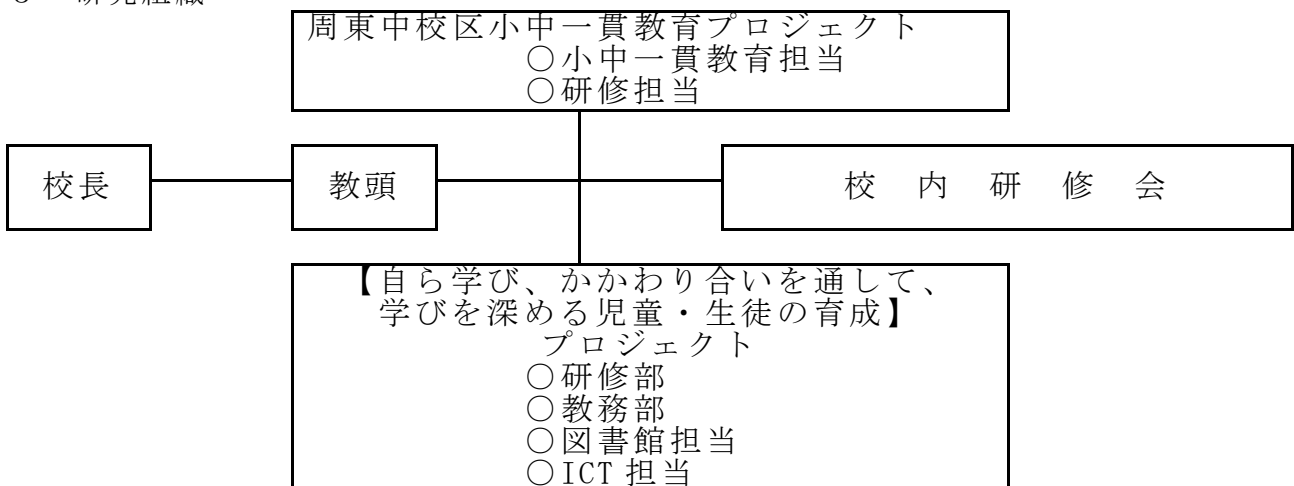
② 体験活動・実践経験の充実

- 総合的な学習の時間の充実
- 特別活動の充実
- 学校行事の見直し
- 地域・家庭との連携

③ 言語活動の充実

- 話し合い活動の充実（ディスカッション・ディベートなど）
- 表現力の育成（プレゼンテーション・スピーチなど）
- 適切な話し言葉
- 適切な表現技能
- 正確で丁寧な文字
- 読書活動の推進
- 新聞の活用

5 研究組織



6 年間研修計画

□学力向上

学期	月	研修内容	備考
一 学 期	4	・令和5年度の研究主題設定・研修計画 □学力向上プランの作成	互見授業（年間） 個人テーマ（年間） にこにこ集会 全国学力・学習状況調査 （6年生） 4月確認問題（5年生）
	5	□児童の課題の把握と対策について（全国学力・ 学習状況調査分析）	お話し会 運動会
	6	・第1回校内授業研究会 ・第2回校内授業研究会	お話し会
	7	□学力向上プランの学期末反省・対策	俳句教室 お話し会
	8	・特別支援教育について ・各種研修会への参加・研修の復伝	
二 学 期	9	・第3回校内授業研究会	お話し会 修学旅行
	10	□学力定着状況確認問題	お話し会 学力定着状況確認問題 社会見学 宿泊学習
	11	□児童の課題の把握と対策について □学力向上プランの見直し ・第4回校内授業研究会	お話し会 ふれあいフェスタ 玖西地区音楽発表会
	12	・第5回校内授業研究会	お話し会
三 学 期	1		お話し会
	2	□学力向上プランの成果と反省・次年度作成	お話し会 俳句教室
	3	・今年度の反省と来年度の計画	お話し会 6年生を送る会

7 個人テーマ

学 年	氏 名	テ ー マ
1 年	高田優子	友達の意見やものとのつながりを意識した表現を用いた学び 合いの充実
2 年	藤井昭則	学習リーダーを活用した授業づくり
3・4 年	上田千晴	複式学級において 自ら学び、かかわり合いながら学びを深 める授業づくり
5・6 年	山本孝子	複式学級における学び合いの充実
ひまわり	綿谷由紀子	特別支援教育の在り方
養護	植木元子	一人ひとりに寄り添った細やかな保健室づくり